

第22回 藤枝市総合教育会議議事録

令和4年10月3日

藤枝市教育委員会

第22回藤枝市総合教育会議教育委員会

令和4年10月3日（月）

市役所西館5階 第3・4委員会室

1 開 会 午後2時30分

2 協議事項

①第2期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）の策定について

②令和4年度「教育日本一」に向けての取組について

・G I G A - F u j i e d a 「藤枝版G I G Aスクール構想」

4 構 成 員

職 名		氏 名
市長		北村 正平
教育委員会	教育長	中村 禎
	委員（教育長職務代理者）	牧田 伸明
	委 員	野中 進
	委 員	永田奈央美
	委 員	永田恵実子

5 出席した事務局職員

教 育 部 長	杉原 一行
教 育 政 策 課 長	鈴木 貴繁
学 校 教 育 監	梶川 佐知子
主 席 指 導 主 事	安藤 厚志
教 育 政 策 課 主 幹	小西 ゆう子
指 導 主 事	田中 裕史
総 務 係 長	田中 英忠

6 傍 聴 者 0人

7 意見の概要 別紙のとおり

8 閉 会 午後4時

○市長あいさつ

第22回藤枝市総合教育会議にご参集いただきありがとうございます。永田恵実子委員を新しくお迎えして、より一層充実した会議としていきたい。

まずは9月23日に襲った台風15号の記録的短期間の集中豪雨によって、本市も未曾有の被害を受けた。これまで災害を受けたことがないような場所でも被害があり、本市では、特に藤岡地区や時ヶ谷地区の床上浸水が250戸にのぼり、これまでの例にないことだった。中山間地域においても、瀬戸谷地区や朝比奈地区で道路の寸断やがけ崩れなど約500か所あり、現在復旧作業を行っている。幸いにも人的被害はないので、全力をあげて復旧作業に努めていきたい。

長引く、コロナウイルス感染症について、9月27日から国の全数把握の方法が変更され、高齢者や妊婦についてはこれまで通り保健所への連絡が必要であるが、それ以外の軽傷の人においては、自分の判断で会社を1週間休むなどの判断となった。専門家の中には第8波もあり、まだまだ気を緩める状況ではないというご意見もあることから、引き続き行政としては、しっかりと対応していく。

災害に戻るが、学校においては、葉梨小学校、稲葉小学校、葉梨西北小学校では、グラウンドや駐車場などへの土砂の流入が発生し、その撤去及び整地には、PTAやスポーツ少年団などのボランティアも早急に対応してくれ、大変感謝をしている。

本日の協議内容であるが、前回に引き続き、将来を見据えた本市の教育が目指す方向性を示すための教育振興基本計画と、タブレットの導入から1年半が経過したICT教育の今後の在り方などについて、教育委員の皆さんと意見を交わしたい。限られた時間での協議となるが、皆さんの忌憚のない意見をお願いする。

○教育長あいさつ

市内小中学校において、台風15号によって土砂の流入等の被害はしたが、幸い学校教育活動では特に支障はなく、順調に進んでいる。土砂の撤去や整地には、少年団員など、多くの地元の方々がボランティアで活動してくれたと聞いている。大変感謝している。

9月26日から教育委員とともに学校訪問を実施し、すでに4校ほど訪問している。コロナ禍であるが、順調に教育活動が進められている中、特にICTの活用がとて進んできて、自然に授業の中に取り入れられていると感じた。

また、今年度から始まった登校支援教室は、教員にとっても、生徒にとっても大きな一歩だったと感じた。

各校1人配置している図書館司書の皆さんも、気概を持って、楽しみながら一生懸命取り組んでいる姿があった。

本日から新しいメンバーによる教育委員としての活動が始まるが、新しい視点から、ぜひご意見をいただきたい。

○協議に関する意見

①第2期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）の策定について

市長：教育大綱については、2月、5月と2回、皆さんにご協議いただいた。先月退任した山田委員からは、子どもの成長や学びの成長が社会の成長につながっていくため、学校の教師の役割がとても重要であるのご意見をいただいた。私自身、教育はひと言で言って、『教育とは人づくり』であると考えている。当たり前のことが、当たり前にできる子。そういう子を今後育てていかなければならない。牧田委員からは、本日議題の2つ目にある、現在教育現場で積極的に取り組んでいるICT教育の充実についてご意見をいただいた。野中委員からは、地域の学校への関わり方について、学校が進んでPRし、地域を巻き込んで施策を展開していったほうが良いとのご意見をいただいた。永田奈央美委員からは、子供たちに必要な問題解決能力を身に着けさせるために、ICTを活用した具体的な取組についてご意見をいただき、教師側のICTに関する知識や技術の向上が必要であると私も話をさせてもらった。また、先ほど事務局より、施策やその主な取組、教育課題に対する新たな取組についての説明があった。前回は、大綱部分を固めていただいたが、今回は施策や主な取組が提示されたので、それを踏まえ、今後8年を見据えた、本市の目指す教育の計画策定に向け、皆さんからのご意見を改めて伺いたい。

野中：4校の学校訪問で感じたことだが、去年に比べて子供たちのタブレットの使い方がうまくて大変驚いた。小中一貫教育では、中学校進学に向けて、小学5年生から教科担任制を取り入れ、児童の反応も良いと聞いているので浸透していくとよいと感じる。牧之原市の私立幼稚園で起こった送迎バス置き去り女子死亡は大変悲しい出来事であった。藤枝市もマイクロバスを保有しているので、同様の事故が起らないよう、バスを使用する際は確認行為の徹底をしてもらいたい。

市長：何年生の学校訪問だったか。

野中：4、5、6年生の授業を見学した。

市長：牧之原市の事故は、幼稚園児であったが、小学校や中学校であればもっと問題が複雑化するので、確認行為はこれを機会に振り返る必要がある。

永田奈：昨年度の総合教育会議で、ICTを活用するにあたり、データを分析するソフトの導入が必要でないかという意見を述べたが、早速メクビットを導入すると聞き、実現していただいたので、来年実現していただけると期待を込めて、今回は次のステップをお伝えする。それはICTを活用した教

員間でのデータ共有である。教員の働き方改革にもつながる取組である。大学の教員間では1から教材を作らなくても、ネット上にたくさん同じ教科の教材が誰でも自由にアレンジして使用している。私自身もそれを活用して、数年前に比べて、とても楽になった。小中学校の先生方の授業を拝見すると、それぞれの先生がそれぞれの教科で、1から教材を作られ、ご苦労されていると思われるので、学校内での共有または、学校外での共有があれば、その教材が更新されて、より質の高い教材となる。そしてその教材で共有や共感が生まれれば、先生方のコミュニケーションも生まれると思うので実現してもらいたい。

市長：その教材に共感するところがあれば、抜き取ることもできるし、とても良いことである。

学校教育監：一人一台タブレット端末がスタートするにあたり、活用方法をシェアすることを目的とし、どこの学校からも教員であればアクセスできる共有サーバであるギガボックスを作成した。元々は一昨年の臨時休校に伴って家庭へどんな課題を出しているかシェアするものであったが、今はタブレットの使い方や教材を学年ごとに整理しているので、次のステップである教員間の知識の共有を図っていきたい。

市長：やろうと思えばすぐできそうなので、ぜひ実行性のあるものにしてもらいたい。

牧田：学びが充実すると、幸せな気持ちになって、笑顔が増えていく。そして仲間とのつながりが深まってつながっていくという計画の理念は、藤枝市の教育に対する思いを感じる。31の施策の具体的な取組内容を今回示してもらったが、大変わかりやすい。実際の現場では、この計画の中で重要視するのは、日々の授業を充実するために教員は相当エネルギーを使っていることから、目標2政策1施策1の確かな学力の定着であると思う。そこで、この計画の中で目玉となる施策はどれか市民が一目見て分かるように強調表示してもよいのかなと思った。

市長：学校の元校長という立場でご意見をいただいた。教育の原点は確かに学力であるが、施策として藤枝市は何だと絞ったPRは必要であるかもしれない。

永田恵：今年から大学の幼児教育のカリキュラムにおいても、映像で絵本を作製したり、人形劇を映像にとって評価したりするなどICT教育が入ってきた。幼児から大人になっても続く、切れ目のない学びという視点でいうと、発達支援に対して0歳から取組む藤枝市の考えは大事である。発達援助を受

けることは恥ずかしいことではないということを強く言いたい。また、小学校のほか、幼稚園や保育園でも今はカリキュラムを作成しているので、接続や連携が必要であり、これは文科省が言っている生きる力につながるものである。特に国は0歳の子育てを大事にしている、将来の愛着形成につながる。藤枝市は公立の幼稚園がないので、もっと学校と接続や連携していければと思う。必要な人に必要な支援ができることが大事である。

市長：公立のみわ保育園の建て替えがあるが、保育士を研修する機能と、支援が必要な子どもと一緒に入園できる機能など特徴がある園の計画をしている。

教育長：大きなトピックから絞られたトピックまでご意見をいただいた。教育振興基本計画と市の総合計画との関連性が大事である。例えば、教育振興基本計画の理念である「豊かな学びで笑顔をつなぐ」の延長上に、市の総合計画の理念である「幸せになるまちづくり」が存在していると我々は考えないといけない。また、豊かな学びの目標1の中に、多様な主体が学ぶという言葉があり、子供だけでなく、市民大学も入ると思うが、「教えることは学ぶこと」という大村はまの言葉がある。例えば、コミュニティスクールに地域の人が学校に入り、いろいろなことを教えてくれるが、教えてくれる地域の人自身が勉強になったという話をよく聞く。地域の人にも子供に関わることでそこに学びが生まれるということである。新たな学びである。それによって豊かになる。ゆくゆくはみんなが幸せになる。そういうサイクルがあると思っている。絞った話をすると、市はゼロカーボンシティを表明した。それに対応するような内容が計画内にあってもよいと思う。日本は2050年までにカーボンニュートラルの実現を表明している。市や各企業が動いているが、30年後に実現することとなると、今の小中学生は、ちょうど生産年齢である。それに向けてクリアしていくためにも、環境に対する教育も必要であると考え。今の学習指導要領はCOP26より前の2017年に策定されたもので、次の改定では環境について入ってくるものと思われるので、それを見越してゼロカーボンについて学ぶ機会を作ることで、市の施策であるカーボンシティに連動した組み立てとなる。

市長：教員の質は大変重要で、本市では教師塾を施策として実施している。教員の存在は、小学校低学年の子供にとって、その後の人生に与える影響が大きいと思っている。だからこそ、教員になる人は相当の覚悟と自覚をもってもらいたい。そのための教師塾である。教育といえばまずは人づくりである。人づくりはまちづくりということを私は信じている。ノーベル賞を取るような子供を育てなければならないし、発達支援のある子供も育てなければならない。知的または身体の支障のある子供もしっかり育てなければならない。そういうことをしっかりやっているということ、まず藤枝市から発信していきたい。

②令和4年度「教育日本一」に向けての取組について

・G I G A－F u j i e d a 「藤枝版G I G Aスクール構想」

市 長：コロナウイルス感染拡大に伴い、令和2年度、子どもたちの学びを保障するため、G I G Aスクール構想の実現に向け、前倒しでタブレット端末をすべての児童生徒が活用できる環境を整備した。本市は、I C Tを活用したまちづくりを、それ以前から進めており、市内の小中学校に、電子黒板などタブレット端末を活用した授業ができるよう、先駆的に導入している。これは、先ほども述べたが、私は、何よりもまちづくりには人づくりがあり、まさに教育がまちづくりの土台になると考えているからである。先ほど、事務局より、現状の説明とともに、本市における今後のI C T教育の進め方も示された。コロナ禍により、教育現場も大きな転換を迎える中、本市がさらに飛躍するための藤枝版G I G Aスクール構想について、皆様からのご意見を伺いたい。

永田奈：事務局より説明のあった、端末の使い方を学ばせるのではなく、何のために使うのかを学ばせるかをきっちり示すことが重要である。手段ではなく目的が重要ということである。例えば、6ページのステップ1で、調べ学習と一斉学習、個別学習については、こういったものを利用して、最終的にこういう学習をさせたいという目的があるので良いが、文章作成ソフト等の利用については、手段であり目的ではない。考えを共有しながら、協調学習させることが目的であると考え。先ほど事務局よりI C Tを活用した取組の現状を分かりやすく報告してもらったが、手段で止まっている場面がみられる。例えば、スカイメニューを使って、グループ内で意見を共有しただけでなく、それによって、どういう学びを支援、育成しているのかがわかるようにまとめていただいたほうがよい。藤枝市は、スカイメニュー、コラボノート、ドリルパーク、メクビットの4つのソフトを導入しているが、ソフト同士で似たような機能があると思われる。例えばスカイメニューとコラボノートには思考ソフトが入っている。メクビットは学習分析ができるが、ドリルパークは学習分析ができない。これらが挙げられるが、市として、こういう学習の時はこのソフトを使用するなど整理して使用するべきだと思う。市内でバラバラの使用方法にならないようお願いしたい。

市 長：資料はよくまとまっているので、ご意見を反映して、フィードバックしてもらいたい。

教育長：I C Tを使って、どういう力を伸ばしていきたいのかを教員がしっかりと意図を持って取り組んでもらいたい。

市長：データや情報など、いろいろ共有することが必要と感じる。誰一人取り残さない社会が大事であり、例えばデジタルデバイドを解消していかないと、全体の底上げにならない。行政と教育が連動してやっていく。